

### 第3回 旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会 会議録

日時：2023/11/29 13:30～15:35

場所：町役場本庁舎 203 会議室

出席者：13名：委員8名、事務局4名、町地域振興アドバイザー

（事務局）

それでは、開会のことばを副委員長よりお願いいたします。

（副委員長）

只今より、令和5年度第3回、旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会を開催いたします。

よろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、協議事項に入ります。

委員長に議長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）

(1) アンケート調査結果について、事務局より報告をお願いします。

（事務局）

それでは、事前に配付させていただいた資料をご覧いただきながら今回、委員長さんからご挨拶いただいた中にもございましたが、第2回委員会を8月に開催以降、次回の開催が大変遅くなってしまい、皆様には大変ご心配をおかけしました。大変申し訳ございません。

当初、第1回目の会議の際に、10月末までに、利活用の方針を固めまして、次年度の予算編成に向けて方針を決定するという話でありましたけれども、その後、町における旧温泉施設利活用の考え方が変わったというところで、方針というより方向性を決めればよいという、当初のタイトなスケジュールからは少し余裕を持った状況に変更されたところがありまして、アンケート調査等の内容についても改めて検討し直すこととしていた中で、その調査内容や設問の内容がなかなか定まらずに、時間が経過してしまったこともあり、皆様には本当にご迷惑をおかけしてしまいました。その当時から、時間がない中で事務を進めてきたわけですが、現状、検討した内容的なものも薄れてしまったという部分は当然あるかと思っておりますので、本日は改めて旧あやめの湯の利活用について、方向性をご検討いただければというふうに考えております。

事前にお配りしました資料、2、アンケート調査の結果ということで、実際に発送しましたアンケート調査の様式であったり、資料等を合わせて集計の結果等もご覧いただければと思いますが、施設等も老朽化している状況の中で、福祉施設及び保健施設と併設している施設ということを踏まえて、新たな使い道という部分では、どうしても、改修して使える場所というのは決まっております、その利活用というところで、閉まっている部分をどのように利活用していくのかというところが、なかなか選定の中でも難しいところではないかと思われまます。

アンケート調査につきましては、資料の2ページの方を見ていただければと思います。

(1) 番の調査の結果についてですが、調査の趣旨といたしまして、このように町民の皆様のいわゆる憩いの場という

ことで永年親しまれた温泉ですが、源泉の枯渇等によって維持が困難になったことから、3月末をもって閉鎖しました。この詳細に関して、「旧温泉施設の新たな利活用について」改めて町民の皆様よりご意見をいただき、今後の方向性を検討するために実施するものです。という説明文を掲載しました。

調査票につきましては、10月20日（金）に発送いたしまして、対象者は、当初ご協議いただきました、町内在住の15歳以上の町民の方1,000人ということで、対象者につきましては、地域ごと年代別に無作為に抽出しました。回答期限につきましては、10月31日までということで、回答方法は、紙ベースの回答に合わせまして、調査票に記載のQRコードを読み込むことで、町のホームページからアンケート入力フォームから回答していただく2つの方法で、実施したところであります。

同封の資料といたしまして、別紙の1をご覧くださいと思いますが、「旧高田温泉あやめの湯利活用に関する町民アンケート調査の実施について」ということで、資料の2、これが調査内容である現地のイメージになります。資料がありますけれども、旧あやめの湯の位置図と高田地域にあるあやめの湯の概要について説明書きを入れてございます。

資料2では、ご覧いただきました施設の概要図ということで、以前ご覧いただいた、それぞれの利用する内部の写真ということで、写真の撮影方向を表示したものです。

（※その他、全体的な結果について資料を基に説明）

（委員長）

今、事務局から説明がありました。

アンケート調査の結果について、何か皆様からご質問やご意見等ございましたら、挙手のうえお願いいたします。

（委員）

アンケート4、5、6について調査の集計結果がないので、出していただいた方が良いかと思えます。

それぞれがどう回答をしたかが分かれば、検討材料になるので、確か家族構成、職業でしたよね。

（事務局）

調査について集計漏れもあり、現在集計をやり直している関係で、今回は問4から問6までの結果について準備できなかったもので、これについては、後ほど追加でお示しできればと考えております。

申し訳ございません。

（委員）

調査の内容と結果を検証するというのが、適切にできないと考えられるので、前回の委員会でどういう話になったのか、この設問についてこれを聞こうっていう意図があったのかなという感じはしております。

私は前回出てないので、皆さんいかがでしょうか。

（委員長）

他の皆さんどうでしょうか。

（委員）

アンケート集計で高田、本郷、新鶴と3地域で取っているのですが、集計結果を見ますと、若者だったり50代以上だったりという大雑把な中で、3地域で具体的にどのようなことを求めているかというアンケートの結果を欲しいなと思ひまして。

多分あやめの湯ってほとんど高田の人しか知らなかったり、新鶴の人は利用しなかったりと思いますので、本郷の人がどんなものを求めているのかというものを出して欲しいなと思います。

(アドバイザー)

私から発言してもよろしいですか。

今委員さんからご質問いただいた内容ってすごく重要で、私も実はこの委員会が始まった時にそこを、事務局と話をしました。なので、事務局としては、今の質問と合わせてなんですけど、美里町で町全体での、地域構想というか、「まちづくり」というものがどのような議論をされていて、今どのような結果になっていて、その上で今回の旧あやめの湯っていうものがどういう位置付けなのかお伝えいただくと、皆さんご理解いただけるのではないのでしょうか。

私も興味があります。

(委員長)

事務局どうでしょうか。

(事務局)

町全体のということになりますと、現在は、本郷第一小学校跡地の再利用についてと新鶴温泉を中心とした観光振興の検討を行っておりまして、高田地域については、高田地域の賑わい創出と旧温泉施設の利活用を基にしたまちづくりということで、先ほどお話しで町全体と言われると、総合計画とか、そういったような全体計画の部分しか今のところはございませんが、とりあえずそれぞれの課題に向けて取り組んでいるというところでございます。

(アドバイザー)

まちづくり全体として、一般的には基本計画があって、総合計画の中で、多分私が今まで議会だよりとかこちらの活動や説明とかも拝見していると、その総合計画は、今の町長さんが着任されたときに、美里町は高田、本郷、新鶴の3つの地域に分けて議論し考えていくという方針を打ち出されたので、多分それに基づいてまちづくりの方針が行われているものと推測しますが、その総合計画の中で、どういった形の位置付けでこのまちづくりの、しかもあやめの湯が検討されているかということが、多分皆さん疑問だと思います。

(事務局)

当然町には、最上位計画に会津美里町の総合計画がありまして、その下にそれぞれの計画がぶら下がっており、福祉の計画だったり、観光のまちづくり計画だったり、それぞれ個別の計画がぶら下がっているということになっています。これは人口減少対策の計画にもなったりとかありますが、そのぶら下がってる計画の1つとして、会津美里町の公共施設等総合管理計画っていうのがございまして、その計画は、町で持っている公共施設の10年間という、合併した時、例えば高齢者施設とか、温泉施設もそうなんですけど、同じようなものは、各自治体、各旧町村にあったので、それは整理していきましようと言ったような、この計画がそうなんですけど、公共施設等管理計画がありまして、その公共施設管理計画の中で施設を統合するもの、廃止するものの中の、温泉施設の利活用処分というものがありまして、温泉施設が3つあったもんですから、基本的には温泉は民間に売却しましようという位置付けになっておりまして、その中で、あやめの湯も本来は民間に売却できればよかったですけれども、源泉が枯渇したというような理由がありまして、温泉が毎分5リッターくらいしか出ない、温度も30度くらいまでしか上がらないということで廃止したと、廃止せざるをえなかったと。

そういう中で、元々あやめの湯は、世代を超えて交流する施設ということで、平成の初めのころから作っておりますので、

そういうところに基づいて、今あやめの湯がなくなった後で、どういうふうに使っていくかということで、皆さんに、お知恵をお借りしたいということで、こういった会議を開いているといったものでございます。

(委員長)

今の話を聞いていると、町全体のビジョンっていうものがあり、そういう流れの中で温泉も3つあってという形なんです。今回のアンケートについて高田地区、本郷地区、新鶴地区の人たちがアンケートに答えてくれて、美里町としての、施設を何とかしたいという思いで、本郷地区であれば、36%の人が答えてくれて、新鶴地区でも34%の人がちゃんと答えてくれてという流れなので、この高田地区だからとか、本郷地区だからという形ではなく、やっぱり、先ほど言われたような形で、全体を見た流れの中で考えていかないと、例えば本郷は民間の方で温泉が売却されて、新鶴地区も民間で、高田地区はなくなったから、じゃあどうしたらいいんだというような、地元の声がありながらも、今、全体的な部分で、やっぱりあやめの湯をどういうふうを活用していくかっていう部分で皆さん答えているところがいっぱいあると思うので、何かその辺の部分がまちづくりの方もそうですが、すべて見た流れの中で考えていかないといけないのではないかと思います。

さっきのアンケートも、やはり細かいところを見ていかないと。結果を見ているとバラバラで、皆さんいろんな考えを持っているので、それを我々がどういう方向性に向けていくのかということは、すごく難しいのではないかと思います。

(委員)

アンケートのその他ですけど、あの広い場所を活かすには、例えばカフェだけとかは無理だなと思うんですね。ひょっとしたら、やりようでは、このアンケートの1から8まで全部あの場所できちやうんじゃないのかなって思うんですけど。どうでしょう。

(委員)

それはばらつきが、あっちもこっちもになっちゃって、魅力的な施設ではないなと感じてしまいます。

何か観光...

(委員)

例えば2番のカフェに決まりました。

あそこ全部、何店舗かのカフェを入れてって...

(委員)

観光施設で道の駅みたいな施設もあるのに、スポーツ施設？何か、観光客向けなのか町民向けなのか、何かばらついてしまうと、ここは何なの？となってしまう。

(委員)

全部をやるんじゃなくて、1個に決める必要はないんじゃないかな？

(委員)

複合的にはやっていいと思うんですけど。

これは、何なのかっていうのが、何か、あそこそんなに広いといっても結構限られてはいると思うんですよ。

公民館に比べれば狭いのではないかと私は個人的に思っているので、何か入れるものは入れると思うんですが、観光施設、道の駅施設とカフェと。カフェがあればその町民が集まれる場所にもなると思うので、ただ全く違う何か、例え

ばスポーツジムだとかになってしまうのは、何かまとまりがなくなってしまうのではないかと思います。

そこはまあ、設計とかにもよるかもしれないですけど。

(委員)

湯船も2つ大きなものがあるので、片方だけでも...

(委員長)

まずはその方向性を我々が決めるのであって、細かいその部分に関しては、新しくなってからそういうところを協議していきたいという部分ではあるのですが。

(委員長)

A 委員どうぞ。

(委員)

未就学児と子育て支援センターは、昔のあやめ保育所で行ってるんですが、やっぱりそういう公共施設を町としてやってはどうだろうかという、声はかかりました。

私たちスタッフが見学に行ったところ、施設は1階と2階がありますが、階段を昇降することは、やはり未就学児にとっては危険なことだし、今やっている活動とか、毎日預かりもやっているのですが、部屋の数も少ないし、とてもじゃないけど、ちょっと無理じゃないかということで、この1階の施設を検討委員会の後の10月にスタッフ全員で中身を見学しました。

本当ですと、私達としては利便性があるので、高田地域の中に子育て支援センターをお願いしたいと思っており、今のあやめの湯を利用してはどうかって言われた時、ちょっと無理な点がたくさんありまして、これでは子育て支援センターはできませんということでお断りしました。

アンケート調査結果の中にも、未就学で遊べるところとかいろいろあるんですが、やっぱりそれを、町全体のいろんな方が、高齢者や小学生だけじゃなくて、アンケートの結果をやはり住民の声を聞きながら、少しずつ何に使えるかなっていうことを、ここで検討していった方がいいんじゃないかなって思いました。

(委員)

やはり、先ほどの総合計画があって、その下に計画があるってところで、結局その各計画の進捗状況、それぞれの分野だと思うので、各分野の進捗的に、生産進捗が遅れているところ、達成目標が達成されていないところを、達成するために使うっていうのが一番いいのかと思います。それは福祉なのか、子どもなのか、高齢者なのか、観光なのかも分かりませんが、なぜまちの全体計画、それから各分野の計画の進捗状況の発生度合い、で達成してないところがあるんだったらそこに力を入れるのが一番いいのかなとは思いますが。

忘れてしまいましたけど、基本的には公共財産でしたっけ？ 処分するという話がスタートだと思うので、これは町民サービスのほうにはもう十分で、他で活用できる建物や場所はありますよってということが前提であやめの湯を止めた。というところがあると思うので、これでもう1回また、町民サービスに使うってなるとそこにまた経費がかかるってところなので、何かこう、やっていることに矛盾してきてしまうのかなって感じもします。

(委員長)

ありがとうございます。

事務局いかがですか。

(事務局)

まず最初の総合計画につきましては、10年間の計画ということで、前期、後期5年に分かれてまして、今後期で7年目くらいの計画時期に入っているのですが、それぞれにいろんな目標値を設けて行っていますので、満たす目標ですから、単年で発生して、近づけて行こう、達成して行こうという話になるので、具体的にそれをたくさんの幅を目標に遅れているところに何か合わせるというと、結構難しいとか、ハードルがすごい高いのかなと思うのですが、確かにそういう考えはあると思います。

もう1つにつきましては、先ほどの温泉施設の、廃止の矛盾というふうにおっしゃいましたが、やはりそうしましても、温泉施設としてはその温泉が出てこないとか、そういう事情もありましたし、もともと3つあり、そういったものは民間によって、そういう方針で議会の議決をいただいて進めてきたということではあるので、温泉施設の方は統合とかそういったものについては、もともと計画どおり行ってきたもので、今後、この建物自体は、まだ耐用年数が残っておりますので、何か住民の役に立つものに使いたいという趣旨でこういった会議をお願いしていますので、ご理解いただきたいと思います。

(委員長)

今の発言の流れでいくと、問8の8番目の、特に活用しなくてもよいで「解体等」というのを入れてしまったことによって、27名の人も、割合とすると8%の人が解体した方がいいんじゃない。これ以上町としてお金をかける必要性がないんじゃないという答えの人もやっぱりいるわけであって、そこは、もしそういう形で利用を前提として、こういう形でアンケートをとったんだというのであれば、この文言は入れちゃったのがまずいのかなって私はちょっと思うんですが、これはいかがでしょうか。

(事務局)

町としては、当然町民のために、こういう施設整備をしていただいて良かった。と思ってもらえるような方向で使っていただきたいと思うのですが、皆様が、それが経費とかかかるわけだから、そんなものはいらないです。ということであれば、それはそれで意見として当然尊重しなければならぬと思っておりますので、そういう意味で、回答の項目にも入れさせていただいたということでございます。

特に、自由意見を見ると、やはり今後人口も減るし、老朽化していく中で、本当に必要がないのであれば、壊すべきだとかそういう意見はありますので、それはそれで貴重な意見だと思っております。

(委員)

今の説明で、施設としてはあとどれくらい使えそうですか。

(事務局)

もともと、この温泉施設としての耐用年数っていうのは、31年なんです。

なぜ31年かって言いますと、温泉施設として設備がボイラーですとか、滅菌機等いろいろ中に入っていますので、お湯を循環させる設備ということで、普通の建物よりは老朽化が激しいため31年となっております。

建物としては、鉄筋コンクリートですと通常50年くらいと言われてますが、ちょうど令和7年で31年を迎えるということで、温泉としての耐用年数は近づいているんですが、鉄筋コンクリートの建物としては、まだ耐用年数はあるということです。

もう一つ説明させていただくと、耐用年数っていうのは元々事業用の資産とかそういうもので、会計上、減価償却と

かをするための期間を設けているものですので、経費として落とすために、あくまで税務上の計算をするものでもあるので、耐用年数が来たから建物が使えなくなるとかそういうわけではないです。

使い方は経年であれば十分使えますし、使い方が悪ければ早く痛むかもしれない。ちなみに木造ですと、例えばこの、耐用年数、他の場合の対応とは異なります。

(委員)

分かりました。だいたい大丈夫です。

このアンケート結果、やっぱり若い世代とか 20 代 30 代と 60 代以上でやっぱり半数くらい違って、やっぱりそれで、結果ばらつきがあってしまうのかなと思うんですけども。

この一番やっぱり、要望がある第 1 希望が観光施設ってなっているのですが、観光施設としてもしやる場合は、その運営というのはどのような感じになるのですか。

(委員長)

事務局どうですか。

(事務局)

ここについては、今後の進め方はあるんですけども、方向はですね、指定管理とか民間の力を活用というのはあるでしょうし、採算がとれるようであれば民営の活用があるでしょうし、町がやるのであれば指定管理というやり方になるかと思いますが、実際はどういった建物がいいのか、こんな方向性もあるのではないかなどを議論いただいて、来年度にその方向性が決まりましたら、それを検討する組織を再度作って、その中で、建物にどんな機能を持たせるかどうか、どんな経営がいいのか、先の段階で議論していただくというようになります。

(委員長)

他にご意見ございませんでしょうか。

(委員)

前に戻ってしまうのですが、委員長が言った施設の解体という意見は、8%ですごく少ないなあと思います。

新鶴、本郷の人が 3 分の 2 いる中で、高田だけだったら 8%でもあり得るんですけど、新鶴、本郷の人を混ぜて 8%は、1 割未満というのは少ないと思います。

町民の人はみんな何かやって欲しいと思っているというか、アンケート調査の結果なのかなと思います。

(委員長)

私、意見の中で、これ以上その税金や何か使わない方がいいんじゃないかと思ったんですけど、いっぱいでないにしても、やはりそういう意見ってすごく大事だなと思います。

これから町の財政的なものとかを考えたときに、我々、それを引きずってやっていくのがいいのかどうかという部分も、考えていかなくちゃいけない時期に来てると思うんです。

それから子供が減ってきて、人口も減ってきてっていう状況の中で、今本当に、先ほど言ったようにいろんな施設を、どうやっていったらいいかっていうような検討をしてる流れの中で、全体的な町の予算とかそういう部分も絡んでくるのかなと私なんかは、ちょっと思いつつ、やっぱそういうふう解体した方が町の負担がかからなくていいんじゃないかなっていう、そういう意見は、人数は少ないにしても、それはすごく大事なことかなっていう部分では、やはりそのアンケートの中では、何にしたいって聞かれてるので、これにしたいこれにしたいっていうのは言うかもしれないけど、やっぱそうい

う流れの中で、解体した方がいいんじゃないのっていう意見の方も大事なのかなっていうのは、私の中で思ったものですから。

(委員)

そういう考え方が、もっと多いのかなと思ったところが少なかったもので。

(委員長)

他にございませんでしょうか。

(委員)

私が言いたいことは、第 1 希望から第 3 希望まであって、答える人の気持ちで、第 1 希望はこれがあって欲しいな、そこにこれも付随して欲しいな、これもあったらいいなっていう気持ちで、第 1、第 2、第 3 って決めてると思うんですよ。だから、第 1 希望だけの割合とか、第 2 希望時割合とかじゃなくて、全体的に割合で考えた方がいいんじゃないかなと思って、集計の結果を、1 番目の合計と、これをちょっと見ているんですけども、その時に、やっぱり 15 歳から 50 歳ぐらいまでの 1 位ってやっぱりカフェの食事提供ってなってるんですよ。

それで、60 代以上の方は、高齢者施設プラス 2 が 2 番目の町民が集まる施設。60 年以下の方は、カフェ＋スポーツ施設っていう年代になって、やっぱり気持ちが、せつかく隣にも高齢者の方の向けの施設がありますし、そう考えると行き来もできるから、そうすると 60 代以下の方の、変な話カフェと、スポーツ施設じゃないけど、こういう結果が出て求められてるっていうことも考えた方がいいんじゃないかなと、利用するのであれば思います。

(委員)

アンケートで 50 代以下の方が、これからその施設を、多分 5 年後 10 年後 15 年を利用するわけですよ。

今高齢者 70 代 80 代の方は多分行けなくなっちゃう施設ですよ。

だから 10 年、15 年後を見て、協議した方がいいのかなと思います。

(委員)

アンケートの分析をする場なのか、私たち住民からすると、自分の生活の中で、日頃言ってるだけなので、その話し合いをしてもしょうがない。

それ以外に行政の方から町の実情とか、経費はこれだけかけられるとか、これが足りないとかっていうものを提示してもらおうと、もうちょっと話し合いになるというか、それぞれ答えてる人も、多分自分の見えてる範囲のことでしか回答してないと思うので、全体における行政のところから、ある程度町全体のところでこんなものが足りないとかをある程度提示してもらった方が、話し合いがもうちょっといいものになるのではと思います。

(アドバイザー)

ありがとうございます。そのとおりだと思います。

多分委員会が少し空いてしまったので、今回は今までの復習だとか、一番最初に事務局の方としては、先ほど事務局の方から、総合計画とこの計画に至るまでの話っていうのを再度ご説明いただきましたけど、最初の会議のときに一応その資料というのは盛り込んであったんですよ。再度確認で私もお話を伺いました。

ただ、こうやって 1 回 2 回集まっていて、みんなその委員として検討するっていうふうには、実際に視察として見に行くと、このぐらい時間経ってくると改めて、どうしようかなっているところでの今日の議論って、すごくいい議論になってるなと思って拝見、拝聴させてもらってました。今のご意見いただいたとおり私も賛成です。

ここでようやく一巡と言ったらなんですけど、ようやく出てきて総合計画の中で先ほど、事務局からも回答いただきましたけど、多分町の計画の中でちくはぐだとか、町の中で疑問、議論がまだまだ未熟であるということに、多分委員さん方すべての方がお気づきになられたという場でもあるかなと思います。

まず総合的なところ私今までの話の中でまとめさせていただきますと、今回のものはまちづくり総合計画の中で美里の中の公共物の財産処分の中から考えている考えなんだという話がありつつも、でも、高田のあやめの湯をどうするかという議論で初発してます。

だから、それを逆に言うと事務局の宿題になると思いますが、美里町全体の中のあやめの湯を検討するのか、それとも高田、新鶴、本郷と分けたときの利便性を考えて施設として検討するのが第一点です。

それは事務局から回答をいただかないと、我々この委員会の中で検討が進まないと思います。

それから第二点、様々なお意見がありましたけど、これは公でやるのか、民でやるのか、

結局、この施設は売却するものなので、民でやる、もしくは公がやるとすれば、指定管理でやるというふうに先ほど課長からのご説明があり、だけど、想定はどこを目指すのか、全く目指すのか目指さないのかってということでも、多分これは美里町に限ったことではなく、どこの町村でも人口減少しています。

それと伴ってマンパワーが足りないと言われてます。

よほど皆さんで検討した内容が複合施設でも何でもいいんですけど、これにするってなった時に、起業してやってもいいですよっていう方が出てくれればいいんですけど、やはり皆さん事業者様なのでよくよくご存知だと思いますけど、誰がやってくれるのかな、誰がどんなことだったら引き受けてくれるのかなと考えながら、事業って検討しますよね。

なので、ここでただ単に「絵に描いた餅」だけ議論して、それを例えば来年度でその専門のところで話を揉んだとしても、実際に先ほど A 委員からのご説明がありましたけど、多分委員さんの中で私も含めて、先ほどの報告の話をはじめての初めて聞いたお話だったと思います。

要はここでどう検討するのかという委員会がありつつも、多分 A さんのところに別な検討の話があって、施設を見た結果お断りしましたというお話ですよ。

ということは、ここで検討するって言いながら個人的に検討が始まっていて、回答をもらっているという不思議なことが起きているということなので、やはりそれは多分事務局でもわかっていて、町としてもわかっていて、顔が見えないと検討ができないってような状況なんだと思います。

それが 3 点目。

というところの整理を踏まえた上での議論が必要かなと思うので、できればせめてこの 3 点だけは事務局の方で、考えを整理していただいた上で、今日はその議論だけでは難しいでしょうから、次回の議論でそこは明らかにしていくっていう方向性ではいかがかなと思って拝聴しました。

いかがでしょうか。

(事務局)

今の件で回答させていただきます。

まず最初の、例えばこのあやめの湯だけの話なのか、町全体の話なのかということになりますと、町全体ということで考えています。

ですからアンケートも、比率に応じてアンケートするということで、ちょっと私の話し方が悪かったかもしれませんが、本郷

地域の本郷一小跡地の利活用についても、本郷だけってわけではなくて、同じ町ですので、町としてどういうふうな利活用が本当にこの町に必要かということで議論が行われているところではありますが、地域の観光として、こういった役割を担って検討段階から行うことで、あくまでこれ高田に限定した話ではなくて、やはり対象者は町内の方ですね、ここだけではないというふうにご理解いただきたいと思います。

あと、公か民かって話につきましては、これはどういった施設を持つかによって、民間でできるものと、やはりこれは公じゃないとできない施設があると思います。

それは、そういった制度を作るというところで徹底していくことになるのかなと思います。

あと、当初温泉施設の売却をする予定ではありましたが、なかなか売却は非常に困難だったということもあります。本郷とか新鶴の温泉は、新鶴は宿泊施設だったり、本郷は温泉だけということで、それぞれの施設だったわけですが、あやめの湯については、保健センターとあやめ荘との一体的な建物になっているのは事実なんです。

例えば、電気設備であれば高圧電力で、キュービクルとかそういったものも一体的な建物として使っているってということで、なかなか難しいという所で、全くできないってわけではないかもしれませんが、結構難しい状況になっております。

(委員長)

何か皆さんからないですか。

(委員)

隣に保健センターとかがあるので、そもそも一緒にできたらいいなと私は思っていて、せっかくそこに子育てのものがあつたりとか、高齢者の方が集まれる場所があるので、これを一緒にやろうとする方向性として考えはあるのでしょうか。

(事務局)

正直、あそこは元々そういう施設ではあるので、今のところはあやめ荘として始まって、元々あやめ荘の中に、沸かし湯があったんですね。

(委員)

今後一緒にということを示すことは。

(事務局)

それはユーザーさんのご意見で、そういうことはできると思います。

(委員長)

今の課長さんの説明でいくと、最初から一体的に考えてという部分が、我々の説明には抜けていたと思うんです。そういう流れの中で、いつの間にか子育て支援センターの方も声かけられてという部分があって、そういう話を聞くと、町では何か方向性が先に決定しているのかなという感じで思ったりするのですが。

(事務局)

その点につきましては、10月の話って、先ほどA先生からお話のあった件は、産業振興課としても後から聞いた話なんです。ですから、産業振興課でもこの組織を作って、検討をお願いしますってところについては、そういった意図は全くなかったということで、信じていただきたいと思います。

声をかけたのは産業振興課ではなくて別な課になります。それは後からお聞きしたということで、お断りしたという話も当然聞いています。やはり、その他の新たな施設を建てるということはいろいろできるでしょうけど、いまある施設をどういうふうを活用するかという話ですので、やはり先生がおっしゃる話は、当然そういう意見は尊重しなければいけない

と思います。

(委員)

逆にその課でそういう話があったということは、その課ではそういうものは必要だと。

それで考えて動いたところは、行政としてそれがいいと思ってたら、それはやらないと駄目じゃないかなって。

逆に、他の課でも、もしかしたらこういうことに使いたいとか、こういう活用を考えたいというのはあるんだと。そういうところを逆に聞いたほうがいいのかないかなという気がしますけど。

(アドバイザー)

全くもってそのとおりです。

多分物事を考えるときの思考って、皆さん当たり前は無意識の中でされてると思うのですが、問題と課題があって、それで答えをどうするかというシンプルな流れで考えると思うんですね、多分町としても、ここは事務局が産業振興課ですけど、町として先ほど課長から説明があったように、公共物の利活用についての検討があって、それに基づいてこのあやめの湯もあるという話でしたから、多分例えば 30 とか 50 とか 100 あるとか。

そのぐらいの公共物全体があって、先ほどどなたかの委員さんがお話されてましたけど、実際の利活用の検討がどのぐらい進んでいるのか、これはもうもう決済終わってるとかっていうものの、全体像がありつつ、それに関してそれとは別に、どんな団体が、もしくはどんな公共施設が、どんな場所を求めているのかというものの、一つのマッチングというのが多分、最重要事項のような気がするんですね。

だとすれば、もし可能であれば事務局からは、先ほど 3 点お願いしてますけど、4 点目としては、その公共財産物の利活用の状況報告書。もしくは、並びに現況というものをご提示いただいて、議論するっていうのも方法だと思います。課長からお話があって、実は視察に行かれたときも、副委員長があそこの社協さんということでご説明があったことを私もすごく気にかけてました。それを今課長が改めてお話していただいたので、お話しできるかなと思ってますが、先ほど電気設備のキュービクルと一緒にいるということで、区分されて用途は三つの施設で運営されていたけれども、この 1 個だけをどうするかという議論を今回やってます。

社協さんにしてみればキュービクル 1 個なんだから、どうしてくれるという話があり、その問題と課題と、それでも答えを出すためには、やっぱり問題と課題をクリアしないと、次のところに行けないので、それをどうするかっていうところを町がどう考えているかという、検討を聞きながら進めていかないと厳しいのではないかと思いますけど、皆さんいかがですか。

(委員長)

私も B 委員さんと同じ地域福祉の検討委員会の中で、社会福祉協議会があやめ荘を利活用するという感じの一言が載っていたりするので、これなんだろうっていうのは地域福祉の検討委員会の中でも疑問視したところであったのですが、そういうところがいろんな課で動いている流れの中で、我々がここで決めることっていうのが、それで大丈夫なのかなっていう感じがするんですけど。

他何か皆さんないでしょうか。

(委員)

こういった福祉とか小中学生が通う場所ということで、いいことなんですけれども、町中巡回バスを通す予定とかはあるんですか？ 町としては。

本郷から高田、新鶴から高田、只見線からだにあやめの湯まで結構歩くので。

(事務局)

今、町中では、デマンド交通ですか...あいあいタクシーがその役割を担ってるんです。  
ですから、あいあいタクシーを利用していただきたいというところです。

(委員)

結構利用者がどんどん増えると思うので、デマンドタクシーも間に合わなかったりとか、使い方の考え方とか、不特定多数に当たって、バスが一つあると助かるんじゃないかなと。このままではちょっと通いにくいと思います。

(事務局)

あいあいタクシーの方も、やはりもう少し利用率を高めたいというところですので。  
両方を使うと、やはりそれなりに経費の負担も大変ですので、まずは、あいあいタクシーの利便性を高めるということで土日も運行してます。  
ドア to ドアですので、そういったものを使っていただきたいというのは私の考えです。

(事務局)

先ほどのアドバイザーからの話なんですが、先ほど資料をいろいろ出すって話にはなるんですけども、当然町は町で、どういうふうな施設にしていくかというのは本当に考えていかなくてはいけないと思いますので、皆さんに本当にこういったものが、やはり純粋に今の皆さんの目から町の中を見ていただいて、こういった施設があったら、町民の方かそういう方も、便利になったなと思っていただける、そういうようなご提言をいただきたいということで、この検討委員会の趣旨ということになってございます。

(アドバイザー)

2点目の質問に関してはいかがでしょうか、事務局。

先ほど電気設備の話がありました。

3施設が区分されているにもかかわらず、キュービクルが1つで分割できないという、今の現状がありますが、それは今後の検討に関しては、とても大きな課題になると思ってます。

それに関して、例えば今後設備を解消されて、キュービクルを三つに分断されるとか、分断した形で、施設を運営できることを考えるのか考えないのかです。

(事務局)

それについては、やはりどういった施設にするかということで、例えば民営化みたいなことでやっていく施設であれば、当然切り離すということで、全くできないわけではないので。

ただ、広い意味での福祉の向上ということで、広場とか何か居場所といった、そういったものであれば、当然今のあやめ荘の一部ということでも使えますので、それは今後どういった施設というか、町民のために使っていただける施設になるのかによって変わってくると思います。

(事務局)

まずはやっぱり、町民の方がどのような施設がいいのかというところがあります。

参考として、居場所づくりの方、いわゆる「高田地域の賑わい創出」の方で、どのような話が出ているかというものを説明させていただきます。高田地域のまちなか賑わい創出の方でも、アンケートもどちらもやってございます。

こちらの方にありますけれども、どの年代でもコミュニティスペース、集まれる場所を皆さん求めているのがアンケート結果

で分かります。あやめの湯と公民館跡地の利活用について地域と施設が被らないようにというか、被っても有効に利用されるような方法を考えながら検討していただけると、同じような施設が2つあっても、有効的に使えないのかなと  
いうことで、どちらかに集約して、より効率的に使えるという観点からもお話いただけますとありがたいです。

(委員長)

説明があったのですが、そうなってくると、やっぱり先ほど委員さんが言われたような形で、どの部分が町で足りないのか、にぎわい創出の中でもそういう施設を考えてる、例えばあそこの公民館の跡地のところに何か大きな施設をつくる構想があるとかっていうのであれば、こっちは違う方向性で行こうというふうになると思うのですが、それが我々全然見えないので、そういう説明がないと、やはり被ってると言われても、向こうの方では被ってるが、こっちはこういうものを建てる予定があるから...ということであれば、違う方向性でということではいけるのですが、全然我々はそういうものを聞かされていないので、美里公民館の跡地にどんな物をつるとかという町の構想があるのであれば、その辺をお聞かせしていただけると。こっちはもう先に検討してる状況なので、被らないうちにと言われても、被ってしまうパターンもありますね。

(事務局)

現段階であれば、そちらの方は、コミュニティスペースというものを重視してますので、高田地域はですね。  
なので、どういう施設っていうのはまだ決まっていない状態です。

(委員)

私、賑わい創出の委員にもなっているのですが、

アンケートで、子育て支援施設とか、子育ての意見は結構若い人が多いんですね。

委員の中で、40歳以下の方がたくさんおりますが、子供が小さい人がたくさんいるんですよ。

そういう人たちは、やはり街なかにぎわいの時に、子供の施設について結構言われる方が多いんですね。

例えば子ども食堂を作ったらどうかという意見もあったんですけど、あやめの湯の食堂跡のスペースにこども食堂を作ったら街なかにはいらないうたっていうとそうでもないし、高齢者施設というアンケート結果、社会福祉協議会のあっちのスペースではいろいろとやっていないのでしょうか。

(副委員長)

協議事項(2)で話をしようと思ったんですが、

今話をしてしまうと、あやめ荘は指定管理で社会福祉協議会が運営しており、高齢者のイベントをやってますので、もちろん一般の方が入ってもいい施設になっており、開放はしてるんですけども、実際のところ利用頻度が想定でも高くないです。

(委員)

今、あやめの湯で検討してるスペース、そっちに高齢者福祉施設を広げても、そっちの方だけで間に合ってるプラス、稼働率が悪いのに、被ってここに造る必要ないですよ。

(副委員長)

その話も、実際今日の検討委員会でしょうと思ってました。

(委員長)

それでは、(2)番の方で、旧温泉施設の利活用の方向性について事務局から説明をいただいたのち、副委員長さんの方から話があるということなので、お願いします

(事務局)

(2) 旧温泉施設の利活用の方向性ということで、今まで見ていただきましたアンケート調査の結果を踏まえて、まず委員の皆様には、施設の空きスペースをどう使うのかというところで、今、議論をいただきました問 8 の利活用案で、まず単独の利活用にするのか、それとも複合施設ということで考えていくのかというところがまず 1 点です。そこからご意見をいただきながら絞っていき、最終的に施設の利活用案を 3 つぐらいに絞ればという形で、事務局の方では考えておりました。

4 ページに別紙がございますが、今回のアンケート調査、これは第 1 希望をベースにそれぞれこの順番に記載はされておりますが、あくまでもこれは検討をいただくたたき台ということで、見ていただければと思います。

あとは自由意見であったり、そういうことを踏まえたうえで、それぞれの利活用案としての施設をこんなふうに使ったら、いいのではないかとのご意見をいただいた部分を、ここに活用案として記載させていただきました。

中身については、この部分を参考としていただいて、ご検討いただければ大変ありがたいと思っております。

(委員長)

単独か複合化というような話もあったんですが、そういう流れの中で、社会福祉協議会の方の話ですか。

(副委員長)

資料の方を読ませていただきました。社会福祉協議会の方では、あやめ荘の方の指定管理をしています。

先ほどお話のように、あやめ荘は一般に向けた施設でありながら利用頻度があまりない状況です。

そこに、あやめの湯の利活用で「高齢者施設」、「一般の方が集まる施設」となると、同じような施設が二つになるので、なおさら利用頻度は少ないと感じているところです。

いろいろ読ませていただいて、上のほうから観光施設等ありますので、そこからまとめましたのでお話していきます。

1 番観光施設、あと、子育て支援施設、あと 4 番カフェについては食事の提供ができるなど感じております。

あと、1 番の観光施設等と、4 番のカフェの食事提供は、観光も含まれる内容になっていると感じました。

2 番と 5 番は、あやめ荘と被りますので、この辺は端折らせていただきまして、

7 番の小中高生が集まれるっていう施設っていうふうにあったんですけども、これについて就業時間帯は、利用者が少なくなり、現実的じゃなし、土日祝日しか集まらないのではないかと感じています。

6 番のスポーツ施設なんてありますが、この併設する施設の中で、現実的には難しいかと思えますし、大がかりな工事になるかと思われますので、これについては観光施設と合併するとか、子育て施設等への変更改修時期になってからかなと個人的に思ったりもします。

あと、先ほどお話ありました、キュービクル（電気設備）については、これは町の方で、うまく調整していただけたら思っています。

食事に関して提供の話ですけども、つい最近「美里町観光大使」という方が新聞に載ってましたが、ああいう方にお声をかけたらどうかなと個人的に思います。

新聞の切り抜き持ってきたんですが、あの茂三郎さんは、弟子がいっぱいいるので、そういった方が旧あやめの湯の厨房を改修したお店にできたら、そういった形で食事と観光の関係に。あと先ほど課長のお話にあった、あいあいタクシーに関しては確か町民の方でないと使えないかと思えます。只見線から観光集客できれば、子供の世代とか、一般の方とかっていうよりも大幅に長い目で見れるのではないかと思います。

(委員長)

社会福祉協議会としてではなくて個人的な部分ですよ。

2 番目の部分については方向性についてということで、事務局からの話だと、今いろんな話アンケートの結果を、踏まえて、皆さんの中でどんな感じの施設に方向性を持っていったらいいのかっていう部分を、意見として出してもらおうということですよ。

委員さん、1 人ずつ答えてもらった方がいいですかね。

(委員)

私はいろいろ考えてたんですけど、他のいろんな方から、集まっておしゃべりするところがないということで、やっぱり美里町にはカフェとかがないので、こういうところに来たら気楽に、お話もできるかなってということで、私は 1 階は、やはり地元農産物を置いていただいて。でも今、駐車場に農産物を出してる方々がいらっしゃるんで、この方達をどうするかという課題があると思うんですが、あそこにカフェがあるとおしゃべりできる場所があって、農産物とかお土産を置いていただく。あとは、あの広さでは、農産物を全部置くだけだと大変なことだと思うので、奥の方には子供が遊べる場所や絵本を置いたり、ちょっとしたおもちゃとか、そんな大きな器具ではないんですけど、そういうものを待っている時に子供たちを遊ばせながら農産物を見るとかっていうのがあればいいのかなと思いました。

2 階には、やはり子供たちを上らせるのちょっと危ないので、若い人たちが、トレーニングジムとか、ボルダリングなどを置いて割安に利用できたら、皆さん、若い方から、お子さんたちまで来るのかなって思っていました。

はい。

運営とかそういうのは、これからなんですけど、とりあえずそんな形で考えております。

あとは、中にトイレがあるんですけど、まずはトイレ施設も別個に作っておかないと、農産物とかそういう観光客を、相手にするのに、中にトイレがあるのはまずいかなと思います。そこに観光チラシとか、観光地の地図や美里町の地図などを貼っておいたりというのがいいのかなと考えてます。

(アドバイザー)

一つ聞かせてください。

今そこまでイメージしてお話いただいたのでせっかくなので、次、他の委員さんにもお願いしたいのですが、今「もの」と「こと」をお話いただいたんですけど、これをすると、週に何日空いていて、朝何時から何時ぐらいまで空いてるといっていうとこまでつけて、お話いただくと非常に参考になります。お願いできますか。

もしイメージができていけば。

(委員)

農家の方は朝早いですけど、やっぱり朝採りだと、9 時頃から、農産物は 9 時頃から 4 時頃まで空いていけば、子供たちを連れてお母さんたちがおんぶしたりだっこしたりしてくるのも、大体 10 時半頃ですと活動できるので、やっぱり、時間的には 9 時から 4 時頃までだといいいのかなと考えてます。

(アドバイザー)

週は月火水木金土日ありますが、毎日開店ですか、お休みがある感じですか。

(委員)

お休みの時はあった方がいいのかなと思いますので、お休みは平日か休日かぐらいで。

平日開店していて、休日休みですか。

平日開店の土日祝日、閉店ですか。

日曜日だけが休みだということを頭に入れてもらうと。

はい。

ありがとうございます。

(委員)

はい。

そうですね。

美里町、高田に限ってなんですけども、そういったお祭りの日だったりとか、正月だったりとかほとんどの商店がお休みしてるんですよ。

食堂もそうなんですけど不定休だったりもするので、やはりカフェとかそういった、ものを買える場所だとかが入るのが良いかなとは思いますが。

これからどんどん人口が減少していくので、関係人口も減少してます。そこから生まれるかどうか分からないですけど、後に繋がるためにも、あと運営にしてもやっぱりお金の収益がないとなかなか難しいので、事業は、そういった施設の方がいいのかなとは思いました。

町内のお店は不定休なので、できればお休みは最低でも正月休み程度で、朝 10 時位から、仕事帰って何か軽く食事したい人も結構いらっしゃるんで、夜は 8 時位まで、朝 10 時から 8 時、休みはほぼないような感じで、誰でも気軽に使えるような場所になって欲しいなと思いました。

(委員)

私は、1 階を未就学児が遊べるスペースにして、2 階は小学生以上の活発な人たちが上ってくるようなスペースで。スポーツといえるかどうか分からないですけど、VR を使ってゴーグルして何かできるような。スペースをそんなにとらなくても楽しめるような、次世代のスポーツを楽しめたらいいなあと。

これはどちらかと言ったら休日向けにはなりますね。

それで、平日学生が学校に行ってる間はどうなるか。

利用がなくなっちゃうかもしれないですけど、そこはその 2 階のスペースに WiFi 環境をつないで仕事ができたりとか、ちょっとしゃべるスペースにしたりとか、VR もそんなに機材は分からないですけど、片付けて座れるスペースにするとか。あと、未就学児を連れてきたお母さん達は、ちょっとしたお話をしたいと思うんで、そこにテナントとして当てが入ってくるといいなと思ってます。

農産物に関しては、外で農産物を売っている方もいらっしゃるんで、もちろん、中にあってもいいんですけど、どちらかと言えば、常温で置けるような物の販売向けにして、別に高田インフォメーションセンターがあるんで、逆にこういう施設もあるという感じにしておけば、全体的に美里蔵のほか新鶴・本郷にこういう施設があるという案内もできるんじゃないでしょうか。

あと、観光トイレじゃないですけど、子供たちがパンダ公園で遊んだ後にトイレに行けるとか、そういう感じで使わせてもらうイメージですかね。

時間帯は、テナントも入るのであれば、テナントさんにもよると思うんですけど、施設はあやめの湯があった時みたいに、火曜日定休でもいいんじゃないかと思います。

朝 9 時から夜 7 時とか、夜は 8 時になると高田の商店街もそうですけど、本当に誰もいない。車もその通りですので、夜遅くまで営業しなくてもいいんじゃないかなと。

以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

C 委員さんお願いします。

(委員)

何をやりたかっていうと、個人的な意見でスポーツ施設とかサウナとかが好きなので、そういうのをやりたいですね。町民寄りとするのか、商売と考える場合、利益を出さなくていいのか、またはお金だけじゃなくて、気持ちの利益っていうのもあるんですけど、福利厚生施設として、町民に還元する施設と考えた時と、ちょっと赤字でも、町の方で補填できる。今まで年間 2,000 万位出してたと聞きました。

例えば 1,000 万ぐらい赤字でも、町民に還元することで町民が 1,000 万以上、気持ち的に 5,000 万ぐらい喜んでもらえるような施設だったらいいわけですね。

経費としては、1,000 万赤字ですけど、その場合に、やる施設によって変わってくると思うんですけど、駄目出しすると、観光施設で道の駅、ミニ道の駅みたいなのを作ったとしてもちょっと立地的に、町民だけが流す感じの、観光施設になると、稼働率悪くて農家の人がいっぱい来ても、そんなに坂下の道の駅のように、売れないんじゃないかなと思うんです。

そうすると少量でね、多分持ってくるようにもなると思うんですけど。

カフェにしても、民間テナントで入ってもらった場合に、なかなか黒字にはならないと思うんですよあの場所でね。わざわざ入ってコーヒー飲みに来た場合、そうするときに、内々だと赤字でも、なんか町で思い切り PR してくれたり、あと町の方でヘッドハントして、さっき D さんが言ったように、「茂三郎の弟子」とか何かアピールするほか、他の町村からわざわざ車で駆けつけるような飲食店やカフェだったらいいと思うんですけど、普通の喫茶店みたいなものでは赤字になっちゃって、入ったはいいけどすぐ 1 年後に辞めてしまったりすると思うんですね。

それで結局最後は、館内が事務所とかレンタルスペースになって、賃料を取ってたらまたシャッター通りじゃないけど、全部空き家になって、どうしようもなくなると思うんですね。

そうすると、やはり町で面倒を見ながら、ちょっとお金はかかるかもしれないけど、何か町民にとってプラスの施設がいいのかなと思って。

漠然とですけど、やっぱり何をやりたいとはっきり言えない状態です。

以上です。

(委員長)

わかりました。

営業時間とかそういうのはいいですか。

(委員)

やり方は、年中無休がベストだと思います。

わかりました。

ありがとうございます。

(委員)

私は、立地的に近くに伊佐須美神社があるのですが、結構神社に来てもすぐ帰ってしまう方が多くて、年間 100 万人が来ている場所が近くにあるのであれば、あそこは観光の施設が一番ベストじゃないかなと思っています。

高田の町中にインフォもあるんですけども、やっぱりわかりづらいついというのがありまして、やっぱりその近くに、道の駅みたいなにして、野菜ですとか、地域でいろいろ作ってる加工品ですとかそういったものを販売できる場所が欲しいなと思います。

やっぱそういう場所がないのでちょっと生産者の人も売りたいですし、来た人もやっぱりどこで買ったらいのかかわらないっていう感じで、よく聞くので、そのように思っております。

あとはそれに附随して、レストラン。

地産地消のものが食べられるレストランが欲しいなと思ってますけど、「道の駅会津」にもあるのですが、ああいった感じで気軽にカフェインレストラン、ランチとカフェが利用できるというのがいいかなと思いました。

私ちようど子育て世代なので、やっぱりどうしても雨の日とかに子供を遊ばせる施設が欲しいなと思ってまして、町民の方が結構「めぐらざ」とかに行くっていう声を聞くんですね。

そういった大きいのは無理なので、私も E 委員さんと一緒に、高田まちなか賑わい創出協議会の方にも入ってまして、まちなかの方では一応まだ検討中であるんですけども、交流が生まれる場所ってということで、町民向けのものも考えられてるんですね。

なので、そっちの方で検討されているのであれば、こっちは、そこまで大規模でなくてもいいのかなと。

本当に屋内で遊べるような施設を、1 階が先ほど委員さんがおっしゃったようなちょっと絵本があったり、そういう遊べるような、やわらかく作ってあったりですとかだといいなと、2 階にちょっとした子供が遊べるような場所、小学生以上の方とかが遊べるような場所だといいなと思いました。

それで、私いいなと思った場所がありまして、

国見町の「あかり」という場所なんですけど、1 階にレストランが入ってまして、2 階がシェアスペース、コワーキングスペースになっています。

あと、シェアキッチンとかも結構最近増えていて、来てくれたらいいんですけど、来てくれなくても自由に使い回すようにして、例えば週何日、何曜日はこのカフェをやってますよとか、使いたい方は、予約して使えたりというのがあったりするの面白いかなと思いました。

この業種・事業者さんだけとか定めなくても、何かそういうシェアするスペースもいいなと思いました。

あと、普段遊ぶ場所で、「ポーネルド(株)※」っていう会社があるんですけど、これ自治体の方も結構いろいろな場所でやってるんですけど、こういうところにちょっと力を借りるのもいいのかなと、屋内で遊べるものが充実してます。

福島空港のところであり、会議室を子供の遊べるスペースにしたりですとか、あと、TSUTAYA ブックストアの中に子供の遊ぶ施設を作ったりっていうところなので、先ほど子供向けの施設は 2 階には無理だっておっしゃってたんですけど、こういったもので、子供向けは 1 階に作って、2 階に小学生以上で作って、ちょっとした体を動かせる場所とかだったら

いいのかなと思ったので、用意しました。

(※ポーネルド様：子どもの遊びについて総合的に取組んでいる企業。遊び道具の提供から遊び環境の創造、メンテナンスまで)

(委員)

そう、ボルダリングとかね。

小学校高学年とか

(委員)

そうですね。

そういった遊べる場所をすごく熱望しています。

営業日ですが、年中無休の形、町内で火曜日休みのお店が多いので。

できれば年中無休で。物産施設は、日中は9時から6時とかまでにして、カフェ自体はやっぱり8時とかまではやって欲しいなという気持ちです。

以上です。

(委員長)

F委員さん、お願いします。

(委員)

私も個人的には観光の施設がいいと思います。

平日の昼間土日でも町内は、ほとんど人はいない状況だと思います。

何をやっても人自体が、もう平日なんか本当に人がいない。何をやっても...最初は来るかもしれないが。

仕事に行ったりするんでしょから、いない。

観光施設がいいなと思いますけど。

ただ、それはもちろん観光客が来てくれる話なので、伊佐須美神社がありますけども、それだけじゃやっぱり。

要は、トンネルができて、どういうルートを通ってくる。

どういうルートで人が来るとか、その観光地を整備するとか、ガイドを育成するとか、名物なおみやげ作るとかいろんなことを一緒にやることで、観光施設としてやれるか。あそこに観光施設を作っただけでは多分うまくいかない。

町の全体の観光のところも整備しながら、あそこを観光施設にするっていうことをやるんだったら観光施設として。もちろん美里町は農業が一番の産業なので、農業振興を考えても、農産物を直接売るよりは今やっぱり農産物の加工品を作って売るとい、どこの道の駅に行っても加工品の販売はあるので、スタッフの農政の方とも協力してもらいながら、そういうこともバックアップしたりとか、それこそ全庁的な協力とか意識があって初めて成功するから、それがないんだとやめたほうがいいかなって思います。

あと、基本的にはお金を生む施設にした方がいいかなと思うので事務所貸し。事務所として区切ってそこを事務所として貸し出すみたいなことで家賃収入を得るとかということでもいいかと思います。

あと、観光施設にするんだと宿泊もできたらすごくいいなと思います。2階に宿泊できたらいいかな。

営業時間は年中無休で。

(委員長)

ありがとうございます。

(委員長)

最後に私ですが、私も観光施設が一番適してるかなというふうに思います。

先ほどインフォメーションの話もちょっと出たんですけども、あそこが門前町通りということで、町の方で、随分前に考えた流れの中で、なかなかあそこから歩いて、神社まで行くっていう人が今いない状況で、そういうことを考えた時に、伊佐須美神社だけじゃなくて、先ほど言ったように向羽黒山とか、本郷焼とか、あと高田においては、法用寺っていうお寺もありますし、みんな繋がって、あと新鶴温泉も繋がってっていう形の、観光施設ができれば、そこにお土産物なんか売っている場所があればいいなっていうのが1つと、あと私子供関係の仕事をしてるんですが、遠足とか、お散歩とか行った時に、急に雨が降った時に中に入って絵本などが読めたりできる施設。

例えば、会津若松市に遠足に行くって言っても、室内の施設がほとんどなくて、まず雨降った時はどうしようっていうのが前提にあって、そういう施設の子供たち以外にも、一般の人たちも利用できる絵本のコーナーがあったりとか、そういう形の部分のスペースもあってもいいのかななんて思います。

会津若松市内のこども園さんが遠足で河川敷辺り、伊佐須美神社の河川敷辺りに来られるところもあるので、そういう時に施設の中に入って休むところがあれば、すごく助かるのかななんて思ったりはします。

先ほど採算性とか、1,000万円とかの話がありましたけど、町のこれからのことを考えたときには、本当にその赤字施設ではなくて、やっぱりある程度利益のことも考えていかなきゃいけない部分もあるので、先ほどA委員さんが言ったように、どこかのスペースを貸すとか、あと、レストランでちょっと、地産地消のやつで売り上げを持って行くとかっていう形の部分がやっぱりあると、私もいいのかななんて、本当にこれから、町全体のことをしっかりと考えていかないと、本当にもう減る一方で、何もないとこだよこは。っていう形になってしまうので、極論、それができないんだったら、もう私も壊してしまった方が。そこで公園で何かこう遊んだ方が、いいのかななんてことも思いながら。そんなところですよ。

(委員長)

ひと通り、委員さんの中からお意見を出していただいたんですけど、方向性ということで、今日休んでる委員さんも2人いらっしゃるんですけど、これをまとめた方がいいのでしょうか？どうなんでしょう事務局どうでしょうか？

(事務局)

今ほどのご意見をお聴きしますと、やはり基本的な部分は、町民の皆様が一番受け入れられるものになる。ということかと思いますので、ある程度絞っていただくような形で、可能であればお願いしたいと思います。

(委員長)

今絞って、ある程度決めてしまった方がいいということですか。

(事務局)

ある程度、そうですね。

(アドバイザー)

予定だともう1日、今日のほかに、12月にもう一度会議があります。

今日すごく積極的に活発な検討ができたと思います。

なので、一つ私から事務局にお願いがあるんですけど、今の皆さんのお考えを聞いていると、お土産物ですとかカフェだとか、こどもっていうキーワードはすごく積極的に出た中で、プラス観光という言葉が出てきました。

私がこの町にアドバイザーとして着任してから、中の動きがよくわからないところで産業振興課の対応しているところが

観光まちづくり推進協議会というところがある中で、その観光の定義の中で私の方でご提案させてもらったのは公共物ってどうなってんのか現況を知りたい、あった方がいいんじゃないのっていう話に関して、高田まちなか賑わい創出協議会があるということで、ここにもお二人の委員さんが参加している。

ご意見をいただきつつ事務局からもご意見をいただきましたが、プラスして観光という話が出ていて、町の中でも観光まちづくり推進協議会という会議がある。

その状況を聞きながら、観光とはという資料を提示していただきながら、2回議論するのがいいんじゃないかなって思ったのがまず1点。それからですね、あと2つほど言います。

施設でまちづくりをしていると確かに人口の規模云々っていうのはあるんですけど、例えば変な話私と、委員長の名前と副委員長の名前使って申し訳ないんですけど、委員長と副委員長と私の3人がいました。

今からお茶飲みたいと思ってますって言った時にこの会議が終わってお茶飲みに行けます下に喫茶店ありますって言ったら、仲良くて3人で話をしようと思ったら同じテーブルと椅子に座りますよね。

だけど、いやあちょっとねえ、のんびりしたいねって言ったら狭いスペースの中でもしかすると背を向けて座ることってありませんか、皆さん。

ていうふうに考えると、今カフェとか農産物って子育てって言って、多分その財産利用っていうところが出てくるか出てこないかわかんないんですけど。

例えばあやめの家がそうであって、高田のにぎわい創出っていうところで今、その跡地利用の話なんかも出てますけど、あそこにカフェがあっても、向こうにカフェがあったからこっちにカフェは無い方がいいよねってなりますか。

という点なんですが、簡単に言うと多様性のことがあるので、子育て世代のママは、もしかすると町だけかもしれないけど、もしかすると、私みたいなおばちゃんにあやめの湯にカフェがあったらそっちに行きやすいわとか、お店もそうですよね。スタバがいい人とドトールがいい人いますでしょ。

だから、今後皆さんで考えるときに、あっちにこれがあるからこっちはいらないよねではなくて、2つあったら面白いよねっていう視点があっても、いいんじゃないかなって思ってます。

それで商売的なことを言うと、これが民間でやった時は競争になります。質が上がります。

より良いものができるっていうところが、プロから見ると、競争していいものを作ったらいいんじゃない。というところですよ。

もう一つ事例としてお話をせらうと、山梨県の方のある地域、自治体ですけど、同じ町です。

町の実際のインフラの整備っていうことで、今まで使ってた施設を壊してしまった空き地があって、どうしようかという議論になったときに、実はそこはJRの駅の前で、町の小さな駅ですけど、駅の前で100年以上の老舗旅館があります。目の前の空き地をどうやって使うかっていう検討をしたときに、何と老舗旅館なのにもかかわらず、温泉付きのパワースポーツジムができた。

これはちょっと難しい話ですけど、ちゃんと企業誘致です。

企業さんは何かをしてくれるということで指定管理で入ってもらって、やっぱりそこも非常に不便なところなので、お年寄りが多い・若者いる・子育てもいる。けれども、運動不足っていうのもあるし、ぴんぴんコロリで頑張ろうみたいなのところもあって、やっぱりジムが欲しいよね。

どこか、この委員会の中でも委員さんの中から答弁があったと思いますけど、あそこの河川敷に通って、本当は温泉があると良かったね。でも温泉の話もできないので、せめてシャワーがあるといいよねっていう意見が出ました。

今日、ここの席の中で子育ての使い方って話があったときに、確かにもう今日私が来るまでの間もいる。

猪苗代あたりはもう積雪があって、車がもう横行してるぐらいの、今日雪です。

もうこの時期から、美里はそろそろ閉鎖的になりますよね。

雪に閉じ込められる。

そうすると、やっぱり雪のないところと雪があるところの違いってそこですよ。

雪はいいものでもあるけども、やっぱり生活至便子育て、高齢者にとっては足が悪いとか、行き場がなくなるとか引きこもるとか、いろんな社会福祉課題がありますけど、もしも何らかの形でそこにたどり着けるならば、幼稚園の子供だっ  
て気分をかけてそこに遠足に行ってみるとか、お年寄りの方はそっちに行ってみるとか、できるんじゃないかな。

雪の地域であるってこと当たり前すぎて、あんまり考えないかもしれないけど、やっぱりその先ほど誰かがおっしゃられたように、その 10 年先のまちとして住民がどうやって生きていくのかっていう視点も持っていただくといいんじゃないかなと  
いうところで、次の会議までに、ちょっと皆さん頭の中で宿題を持ち帰ってもらいながら、2 回目の議論で、あと委員長  
副委員長の方からお話を、滞りなく進めていただければよろしいのかなと感じました。

ただやはり多分皆さん、今日のお話で聞いていると、やっぱりデータがない。

私はここしか知らないの、なるべく調べたけど、他で何をやってるかがわからないし、町がどう考えてるかわからないって  
いうのは、一般的にはこれを全部会議資料で全部今現状ここで答えていらっしゃった上で検討するんですけど、今の  
検討委員会 Q & A でやってますから、ここで出た課題を一つでも解決しながら検討をスムーズにできるために、できる  
ことであれば事務局の方で、あらゆる資料をご提示いただけますように、私の方からお願いします。

(委員長)

はい、ありがとうございます。

では、今のご意見の中で言うと、今もう 3 時半になったので、ちょっと時間も経ってますし、次回のスケジュール、

(3) 今後のスケジュールということで、今のアドバイザーさんの話も含めながら、事務局において次回を設けていただ  
いて、

もう 1 回再度協議する形でよろしいでしょうか。

(事務局)

それでは (3) 今後のスケジュールについてということで、委員長の方から皆様からいただいたご意見を整理するって  
いう形で 12 月 20 日にですね、同じ時間帯で、開催させていただくことでよろしいでしょうか。

はい。

(委員長)

皆さんよろしいでしょうか。

それでは、12 月 20 日の日に、再度今日の委員の話も踏まえた上で、また再度考えてきていただけるといいかなって  
思います。あと、事務局の方には、今アドバイザーさんの方からお話があった部分の、資料をもし提示していただけるの  
であれば、お願いをしたいなと思います。

よろしいでしょうか。

はい。

それでは、(4) のその他、何か事務局の方からあるでしょうか。

(事務局)

6ページの別紙をご覧くださいと思います。

スケジュール変更案ということで、提示させていただいておまして、

本日、第3回会議ということですが、次回の会議を踏まえ最終的に懇談会という形で、予定をしたところなんですが、最終的に懇談会の意見を聞いた上で、最終的な決定という形にした方がいいのかどうかという部分についてお諮りさせていただければと思います。

(委員長)

その件に関して、このアンケートの結果そして委員の中で方向性を決めたのであれば、懇談で私はこうだよとか、委員の中でこういうふうに決めたかもしれないけども、私はこういうふうにした方がいいんだっていう意見が多分出てくると思うんですが、それを我々がこう決めた意見を、懇談会によってまた変えてしまうという形になる。何かそこは何のための委員会なのか、委員会の中で決めたものであれば、このまま町長の方に提言させていただければ、いいのかなと私は思うんですけども。

皆さんどうですか。

(委員)

そうですね。アイデアを出してもらおうというのはやめたほうがいいと思います。

ただ、懇談会をやる意味って、やっぱり利活用に関して、主体的にこの中に関わっていただくという、

取りかかりとしてはすごくいいと思うので、そこで何か主体的に関わってくれて、じゃあ俺こんなことやるよとか、こんなことできそうだっていう、今後そういう方向に進めたいのであればいいと思います。ただ進め方はすごく難しいと思います。

1回だけじゃ難しいかなと思いますけど。

それこそ全庁的に観光や何か子育て支援とかの施設として、いろんな人に関わってもらってそこをやっていくっていう懇談会っていうか、町民の方が主体的に関わる場を作って進めていった方がいいかと思う。

(委員長)

他の委員さんないですか。

私もそういう形で、この会としては方向性の提言をして、その流れの中で観光施設で、さっきのFさんの資料のような形の、こういうものもいいんじゃないっていうような懇談会を、町の皆さん町民の皆さんが理解してくれるような形の懇談会であれば、いいのかなと思うんですが、まだその提言もしていないうちに、懇談会をやってしまったら、それをひっくり返されるような形になってしまうんじゃないかなと。

ここで、委員会としての決定をしたらいんじゃないのかなと思います。12月20日の日に。

他の皆さんどうですか。

(アドバイザー)

多分懇談会っていう名前が来て、今の流れだと、多分皆さん首を縦に振られていたので同意なんだと思うのであえて言いますが、皆さんで決定されて検討されたことから、これを会長おっしゃるように、町長に提言という形でまとめられて、まとめた後に、懇談会ではなくて、説明会という名称でなされたいんじゃないですかね。

今の趣旨だと懇談会だと混乱を招くので。

検討委員会で話をした内容の説明会というような。

形がよろしいかと思えますね。

微妙なんですけどね。

言葉ってイメージになるからね。

多分その段階になってくると町さんの方でも、じゃあ観光でこんな感じでやっていこうというような思いも出てくると思いますし、どのぐらいのお金を使うんだらうとかそういうようなことも出てくるんでしょうから。

そうなったときの説明っていうか、そこをこういう形でやりますよっていう説明だと私もいいと思います。

皆さん、それでよろしいでしょうかね。

はい。

（委員長）

その他はないですか。

なければ座長の方を事務局にお返しします。

（事務局）

4 その他はありますか。

特になければ、閉会のことばを副委員長より申し上げます。

（副委員長）

皆様、長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

これをもって第3回委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。